

第7回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

日時 平成30年2月25日(日) 14時00分～16時00分

会場 川西文化会館

資料説明	荒井奈良県知事
<p>ベッドタウンとして発展してきた奈良県では、急速な高齢化、人口減少が進んでいます。このような状況の中、若者が地域内で働く場の創出、高齢者が地域で医療・介護のサービスを十分に受けられる環境の整備、女性が働きやすく、結婚しやすく、子育てしやすい地域づくりが課題です。</p> <p>これらの課題に立ち向かうため、奈良県では、市町村同士または県と市町村の連携・協働を強化する「奈良モデル」を推進することにより、地域行政の効率化に取り組んでいます。</p> <p>具体的には、消防の広域化に取り組み、37市町村が一つの消防本部をつくりました。現在、通信部門の統合まで進み、平成33年には現場部門を統合する予定です。また、南和地域の三つの公立病院を、急性期・回復期を中心に担う一つの病院と、回復期・慢性期を担う二つの病院に再編整備し、救急搬送受入数が約2倍に、病床利用率が約9割になりました。へき地の診療所との連携も進んでいます。</p> <p>他にも、ごみ処理施設の広域化、道路インフラの点検委託、収税強化、中南和地域におけるバス路線の見直し、パーソネルマネジメントなどの分野で連携・協働に取り組んでおり、さまざまな成果が出ています。</p> <p>医療分野の成果として、がんの死亡率の減少幅がこの10年間で全国1位になりました。がん死亡率の全国順位も34位から9位に改善されています。</p> <p>今後も、県と市町村の連携・協働を一層推進し、県域水道の効率化や地域包括ケアシステムの構築、国民健康保険の県単位化、まちづくりなどに取り組んでいきたいと考えています。</p>	

資料説明	上田大和郡山市長
<p>大和郡山市では、住民ワークショップを通じた近鉄郡山駅周辺のまちづくりの推進や、企業力の強化、働き方の改善及び働く環境の向上を目指した昭和工業団地地区周辺のまちづくりの推進など、官民、あるいは公民連携のまちづくりを進めています。</p> <p>今後も、住民ワークショップを重ねることで、関係者の皆さんと議論を深め、さまざまな意見をこれからのまちづくりに反映できるよう、全力で取り組んでいきたいと思えます。</p>	

資料説明	竹村川西町長
<p>川西町では、県や近隣市町村と連携しながら、ごみ処理の広域化や水道事業の広域化を進めています。また、住民参加型による近鉄結崎駅周辺整備事業や、県と連携した工業ゾ</p>	

ーン創出事業の推進により、働く場の創出や定住人口の増加に取り組んでいます。

どの事業も、川西町のような小規模な自治体単独では推進することが難しいですが、県と協力、また、住民と協力しながら、元気なまちをつくっていきたいと思っています。

資料説明	森田三宅町長
<p>三宅町では、もうすぐグローブの製造が始まって100周年を迎えます。そこで、「グローブの生産地みやげ100周年プロジェクト」をスタートさせ、地場産業の活性化、地域の活性化、郷土への愛を三つの柱として、三宅町の魅力を全国に発信していきます。</p> <p>しかし、三宅町だけでどれだけアピールを行っても限界があるため、県や各種団体、関係市町村と連携することで、三宅町の魅力を奈良県の魅力として発信していきたいと思っています。</p>	

資料説明	森田原本町長
<p>田原本町では、奈良県と包括協定を締結し、田原本駅周辺地区の整備や工業ゾーンの創出を進めています。田原本町には4つの駅があり、また、国道24号線や京奈和自動車道が通っていて利便性の良いまちである一方、通り過ぎられるまちでもあるのが課題です。</p> <p>今後も、県との連携を進めながら、長期的な視点で、田原本町が目的地になれるようなまちづくりを行っていききたいと思います。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>奈良県が発展する一つの切り口として、訪問者、観光客、その中でもインバウンド観光というのがあると思いますが、この地域はポテンシャルがあると思います。</p> <p>最近では自分の自転車を持って観光を行う外国人観光客が増えています。この地域は平地ですので、例えば民泊に泊まって、自転車で好きなところを観光することが可能であり、そのような魅力をつくることのできるような気がします。</p>	

質疑応答①	城廻り線の整備と近鉄郡山駅の移転は連動しますか。近鉄郡山駅周辺のまちづくりについて教えてください。(大和郡山市在住者)
<p>(上田大和郡山市長)</p> <p>城廻り線の整備は、車の流入を抑制し、歩行者中心のまちづくりに大きな役割を果たすと思います。また、城廻り線につながる市道の整備も進めており、車の流入のさらなる抑制に加え、新奈良県総合医療センターや第二阪奈道路へのアクセスが良くなることから、</p>	

駅前を中心とした産業や観光の振興につながると考えています。

(荒井奈良県知事)

歩行者中心のまちづくりということで、矢田町通りの歩行者優先化も進めています。

また、車の送迎等による駅前の渋滞が課題ですが、広場をつくり、そこで送迎することにより渋滞を緩和し、送迎後は城廻り線の北側から出ていくような構想を考えています。さらに、城廻り線北側の踏切付近でも、慢性的な渋滞が発生していますが、地下道の設置により、解消が可能だと考えています。

質疑応答②

結崎駅周辺の整備や工業ゾーンの創出において、県と川西町では、どのような連携・役割分担をしていますか。(川西町在住者)

京奈和自動車道三宅インターチェンジの開通や、インターチェンジへつながる道路の整備を県が進めていますが、将来の発展を見据え、どのような土地利用を考えていますか。(三宅町在住者)

(荒井奈良県知事)

工業ゾーンの創出にあたり、プロモーションをすることが大事ですが、県では、プロモーションのマッチングに取り組みたいです。また、地元では、道路や工場用地の整備を進めるため、用地買収に取り組んでいただきたいと思います。

(竹村川西町長)

荒井知事のおっしゃるとおり、工業ゾーン創出の一番の要素は用地買収であると考えています。住民の皆さんのまちづくりに関する合意形成を大切にしながら、前面に立って地権者との交渉を進めていきたいと思っています。

(森田三宅町長)

三宅インターチェンジ周辺には、広い土地がありますが、奈良市から約40分でそこまで行くことが可能です。リニア中央新幹線の奈良市附近駅の誘致に併せて、三宅町でも、それらの土地を中心に、企業誘致や商業ゾーンの創出に取り組んでいきたいと思っています。

(荒井奈良県知事)

三宅町には、県立高等技術専門校がありますが、学校の近くに働く場があると、そこでインターンシップをして、勤めることが可能になります。若者を呼び込むためにも、働く場の創出が大きな政策の柱であると思っています。

<p>質疑応答③</p>	<p>田原本町では、現在、唐古・鍵遺跡史跡公園の整備を進めていますが、宿泊施設がないと認識しています。田原本町周辺への宿泊施設の誘致について、どのようにお考えですか。(田原本町在住者)</p>
<p>(荒井奈良県知事)</p> <p>これまで、県有地を中心にホテルの立地を斡旋してきましたが、市有地や民有地でホテルの立地希望がないか調査し、マッチングする試みを始めようと思っています。宿泊に適した土地があれば、リストを整理し、宿泊施設の誘致に向けて、一緒に取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>(森田原本町長)</p> <p>田原本町では、今まで宿泊の概念がありませんでしたが、ホテル事業者からも打診があり、今後は宿泊施設の誘致に積極的に取り組んでいきたいと思っています。空き家の民泊への利活用に向けた検討も進めていきたいと思っています。</p>	

<当日回答できなかった質問に対する回答> ※回答は奈良県のみ

<p>質問①</p>	<p>奈良県と川西町の連携協定により、唐院工業団地は、企業誘致や都市計画の規制緩和の状況など、どのように変わるのでしょうか。(大和郡山市在住者)</p>
<p>県では、雇用の場の創出のため企業誘致を積極的に行っていますが、企業のニーズに応えられるまとまった用地が不足していることが課題です。そのようなことから企業立地の魅力が高まる京奈和自動車道及び西名阪自動車道周辺において、関係市町村と県が連携して工業ゾーン創出に向けた取組を実施しています。</p> <p>川西町においては唐院工業団地の西側にて、町と県の連携により、立地企業の誘致等について検討を行っているところです。</p> <p>具体的な将来の姿をお示しするのはもう少し先になりますが、唐院工業団地周辺に産業用地を創出することで、雇用の創出を図り、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたり住みよいまちを持続させるため、取り組んでいきたいと考えています。</p>	

<p>質問②</p>	<p>働き方改革と言われているが、昭和工業団地のまちづくりとの関連性を教えてほしい。(大和郡山市在住者)</p>
<p>昭和工業団地地区のまちづくりについては、平成27年6月に県と大和郡山市が『まちづくりに関する包括協定』を締結するとともに、県、大和郡山市及び昭和工業団地協議会の3者で『昭和工業団地のまちづくりの検討に関する連携協定』を締結し、3者で検討を行っております。</p>	

そして、まちづくりの目標を「次世代につなぐ、生き活きと働ける環境づくり」とし、「企業力の強化」「働き方の改善」「働く環境の向上」の3つをまちづくりの方針と定めたところです。

今後も引き続き3者が協働して検討を行い、従業員の仕事と生活の調和の実現に向けた取組をしていきたいと考えています。

質問③	奈良モデルの一つとして、唐院工業団地の拡幅を進めようとしておられますが、盛り土による内水水位の上昇と内水範囲の拡大をどのような手だてで防ごうと考えられておられますか。(川西町在住者)
唐院工業団地が今後拡幅される場合は、特定開発行為に伴う雨水の流出抑制を目的とした防災調整池等の設置による貯留量の確保や、また、盛土行為に伴う場合は、内水による浸水時の浸水高さの上昇及び浸水面積の拡大防止を目的とした貯留量の確保など、周辺地域における内水への対処について、今後も川西町と十分に協議を行ってまいります。	